

平成30年度

石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

本研修会は、石巻市内小・中学校の教員を対象に平成27年度から本格的にスタートし、今年で4年目となります。石巻市の各小中学校が抱える学校課題の解決に向けて、「学級づくり」「人間関係づくり」「信頼関係づくり」「児童生徒理解」の4つの視点から教員の指導力向上を図り、その結果、学級や学校の力が向上し、学力も向上していくという認識のもと、取り組んでいるものです。

第1回、第2回研修会

- 日時 平成30年5月7日（月）、8日（水）9：25～
- 場所 石巻市立桃生中学校体育館
- 講師 広島大学大学院教育学研究科
附属教育実践総合センター長 栗原慎二教授



今年もお世話になる栗原教授。

☆研修内容

7日午前：納豆のような学級集団づくり

7日午後：SEL

実践発表 向陽小 及川昌輝主幹教諭

8日午前：個と集団に対するベーシックスキル

9日午後：協同学習の原理

実践発表 貞山小 山田 晋教諭



1年算数での実践を発表する山田教諭。

【モデル校・協力校について】

今年度より、中津山第二小学校と桃生中学校がモデル校となりました。また、同じ桃生中学校区の中津山第一小学校と桃生小学校が協力校となり、桃生地区挙げての研究に取り組んでいきます。



「非言語的コミュニケーション」に関する演習にじっくり取り組みました。

<受講者の声>

- ◇ 「リーダーシップは組織の使命を考え抜き、それを目に見える形で明確に確立することである」という言葉が印象に残った。やはり目に見える形でないと、人はついてこない(賛同できない)面があると思った。
- ◇ 自尊感情を芽生えさせる際、「ただほめるだけではない」という言葉に目が覚めたような感覚になりました。その子どもの存在を認める、喜ぶという根本的なところから始めていくことの大切さを今回学ぶことができました。
- ◇ 向陽小の実践が参考になった。本校の先生方も既存の指導案に工夫を凝らした実践を行ってきている。新規加入の先生方とも授業を見合う場を設定し、昨年度より一歩でも前進した取組にしたい。

◇ 非言語の読み取りの重要性について、演習を通して確認できました。解釈する＝教師の力量 という言葉を胸に留めておきたいです。

◇ 様々な演習を通して望ましい子供・保護者への関わり方を学ぶことができました。特に非言語から解釈することの大切さを実感できました。

◇ 協同学習の取組は、試行錯誤の段階で、何となくペアやグループでの話し合いをしがちだった。今回協同学習を成立させるためのポイントを聞き、人数、役割、評価などに配慮し、中間層の児童も自信をもって交流できるように取り組んでいきたい。また振り返りをしっかりと行い、個人のもつつけていけるよう、教師側でより意識をしながら取り組みたい。



石巻市教育委員会